

PASV モードでの設定について

固定 IP アドレスの場合

pasv_address= ルータの WAN 側 IP アドレス

非固定 IP アドレスで DDNS を使用している場合

pasv_addr_resolve=YES
pasv_address= ドメインアドレス

利用ユーザの制限

<http://blog.development-network.net/ung/2006/12/vsftpd.html>

ユーザ制限を行う場合は、

userlist_enable=YES

にして、制限するユーザを

/etc/vsftpd/user_list

へ書く。

userlist_deny=NO

にした場合は、user_list のユーザが許可される。それ以外のユーザは拒否される。

userlist_deny=YES

にした場合は、user_list のユーザが拒否される。それ以外のユーザは許可される。

userlist_enable	userlist_deny	user_list のユーザ	それ以外のユーザ
YES	NO	許可	拒否
YES	YES	拒否	許可

ただし、ftusers に書かれているユーザは必ず拒否される。

IPv6 の対応について

IPv4 か IPv6 のどちらかの接続を待つが設定できる。

基本的にどちらかのみで、両方はできない。

IPv4 を利用する場合は

listen=YES
listen_ipv6=NO

とする。

chroot の設定

<http://d.hatena.ne.jp/littlebuddha/20090818/1250569354>

注意点

vsftpd 3.x.x 以降は

```
allow_writeable_chroot=YES
```

がないと接続できない。

chroot 先が書き込み可能でも許可する設定。

まとめて設定

```
/etc/vsftpd.conf
```

chroot_local_user	chroot_list_enable	chroot_list に書かれた ユーザ	その他のユーザ
NO	NO	chroot 対象外	chroot 対象外
YES	NO	chroot 対象外	chroot 対象
NO	YES	chroot 対象	chroot 対象外
YES	YES	chroot 対象外	chroot 対象

```
# ローカルに登録されているユーザーを chroot 対象にする  
chroot_local_user=YES
```

```
# chroot_list に記載されたユーザーは、  
# chroot_local_user が「YES」の場合、chroot 対象「外」になる  
# chroot_local_user が「NO」の場合、chroot 対象になる  
chroot_list_enable=YES
```

```
# それぞれの設定で例外にするユーザー名を記入する  
chroot_list_file=/etc/vsftpd/chroot_list
```

```
/etc/vsftpd/chroot_list
```

ユーザ名の羅列

ユーザー毎に設定

上記で chroot の対象となっているユーザに対して設定が有効になる

設定ファイル編集

```
/etc/vsftpd.conf
```

に

```
user_config_dir=/etc/vsftpd/vsftpd_user_config
```

を追加。

設定ファイルのディレクトリ作成

```
mkdir /etc/vsftpd/vsftpd_user_config
```

ユーザーごとの設定ファイル編集

```
sudo vi /etc/vsftpd/vsftpd_user_conf/hoge
```

ファイルの中身

```
local_root=/home/hoge/chroot
```

vsftpd.conf のサンプル

指定ユーザーのみ許可する (CentOS7)

```
connect_from_port_20=NO
anonymous_enable=NO
chroot_local_user=YES
userlist_deny=NO
use_localtime=YES
pasv_addr_resolve=YES
pasv_address=hogehoge.ddo.jp
pasv_min_port=60000
pasv_max_port=60030
force_dot_files=YES
allow_writeable_chroot=YES
listen=YES
listen_ipv6=NO
```